

(2)協議事項 第9期計画における目標に対する自己評価

取組と目標に対する自己評価シート(フェイスシート)

タイトル：健康づくりと社会参加の促進（令和6年度）

現状と課題

令和7年3月1日現在、本市の高齢化率は39.73%となり今後も高齢者の増加が見込まれ、住み慣れた地域で徒歩で通える場所に気心の知れた近隣の方と一緒に健康づくりへや生きがいづくりへの取り組みがますます重要となる。そのため、前期高齢者のうちから体力や筋力の維持増進を目的とした運動教室や身体、口腔機能の低下や低栄養を予防し、社会参加を促すことを目的とした介護予防教室を実施している。教室終了後は、引き続き集まりの場「サロン」を作る事業を進めているところではあるが、サロンを運営する代表者、支援者のなり手不足になり、サロンの立ち上げに至らないなどの課題がある。

また、高齢者の生きがいづくりや地域活力の向上を目的に、高齢者クラブやシルバー人材センターへの運営支援をしているところである。高齢者クラブにおいては、会員の高齢化によりクラブを退会する方も多く、クラブ数も年々減少している。一方、シルバー人材センターの会員数は、ほぼ横ばいで推移している。

第9期における具体的な取り組み

- (1) 健康づくり事業の推進 (2) 高齢者福祉の充実 (3) 高齢者の社会参加の促進
- (4) 地域生活環境の整備 (5) 高齢者の虐待防止と権利擁護の推進

目標（事業内容、指導等）

①高齢者の保険事業と介護予防の一体的実施

- ・加齢に伴う低栄養、筋力や口腔機能をはじめとする心身機能の低下、抵抗力低下に伴う感染症を予防するため、介護予防教室に医療専門職を派遣し、専門的な知識による指導等を行い、高齢者の生活習慣病等の重症化予防や心身機能の維持増進を図る。

②生きがい活動支援事業

- ・高齢者クラブや同連合会に対して補助金を交付し、高齢者クラブの育成・活動を支援
- ・健康で働く意欲のある高齢者が社会に参加することを目的にシルバー人材センターを設置し、就労を通じた高齢者の生きがいと地域社会の活性化に向けて活動を支援

③老人福祉事業

- ・自宅で暮らしている援護が必要な高齢者やその家族からの相談に応じ、各種保健、福祉サービスが総合的に受けられるように地域包括支援センターや在宅介護支援センターと連携し、高齢者の相談等を支援を図る。

④高齢者虐待防止・権利擁護事業

- ・認知症などで判断能力の低下した高齢者などが不利益を被らないよう、市社会福祉協議会で実施している日常生活自立支援事業の普及、周知を図るとともに、成年後見制度や高齢者虐待防止についてもさらに周知する。

目標の評価方法

●時点

- ☐ 中間見直しあり
- ☒ 実績評価のみ

●評価の方法

各事業における実績数と目標値の比較による評価

後期(実績評価)

事業内容

- ・運動、栄養、口腔ケアについての重要性を普及啓発を行っていくとともに、専門職による介護予防教室を実施
- ・高齢者クラブ、シルバー人材センターに補助金を交付し、高齢者生きがいと地域社会の活性化に向けての活動を支援
- ・在宅の高齢者や家族からの相談体制の整備
- ・高齢者等が不利益を被らないよう、日常生活自立支援事業や成年後見制度、高齢者虐待防止について広く周知する。

自己評価〔○〕

半数以上の事業において目標値を上回ったため「○」と評価した。

指 標	R 6 目標値	R 6 実績値	実施状況
介護予防教室参加者数 (運動・栄養・口腔の重要性を理解してもらいフレイル予防を図る)	110 人	103 人	7 箇所で専門職による運動等の指導を行った。延べ 717 名の参加することができた。
高齢者クラブ会員数 (地域交流の基本となる高齢者クラブの育成を支援する)	2,000 人	1,973 人	高齢者クラブ数、会員数共に年々減少している。クラブの魅力等を発信するなど減少に歯止めをかけるための工夫が必要であった。
シルバー人材センター受注件数 (元気な高齢者の社会参加の一環として受注件数の増加を図る)	1,800 件	1,834 件	一層の受注増に繋げられるように周知を図った。 (令和 7 年 2 月分まで)
地域包括支援センター及び在宅介護支援センターでの総合相談件数 (各種保険、福祉サービスが総合的に受けられるよう体制づくり)	1,250 件	1,309 件	今後も相談されたものには包括支援センター及び在宅介護支援センターともに個々に対応した。 (令和 6 年 12 月分まで)
日常生活自立支援事業の利用者数 (高齢者等が不利益を被らないよう権利擁護事業を推進)	10 人	12 人	社会福祉協議会で実施。相談等も含め延べ人数 407 人が利用した。

課題と対応策

今後も、健康づくりや生きがいづくりが重要となっていく。フレイル、要介護状態に陥らないよう、自ら行動できるような介護予防教室を引き続き開催し、運動・栄養・口腔ケアの重要性を理解してもらう。また、教室が終了しても住民主体の通いの場として継続してもらえるよう在宅支援センターと協力しながら、助言、支援していきたい。

日常生活上で支援が必要な高齢者が住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、自立した生活や健康を支える高齢者福祉事業の充実を図るとともに、シルバー人材センターや高齢者クラブへの運営支援を引き続き行うことで、高齢者が気軽に地域活動に参加し、地域社会の中で活躍できる場の充実を図っていきたい。